

橋本市災害情報伝達検討委員会

市民アンケート結果報告

令和5年2月

橋本市 危機管理室

アンケート概要

- 無作為に抽出した2,000名の橋本市市民を対象として「災害情報の取得手段に関する市民アンケート」を実施した。
- アンケートを郵送し、回答用紙を返信していただく方式を採用した。
- インターネットでもアンケートに回答できる仕組みを準備した（同一人物が複数回アンケートに回答できてしまうため、結果は参考に参照することとする）。

アンケート概要

期間：	2022年10月4日（火）～10月20日（木）
対象者：	橋本市内在住の市民
人数：	18歳以上の市民から2,000人を無作為抽出 回答は755人（回収率38%） （10/25現在）有効回答数（※1）751人（全未回答のみ無効としたが、部分未回答者あり）
方法：	郵送にてアンケートを送付
質問内容：	全18問（回答者属性、屋外拡声子局について、防災情報の取得手段について）

※1 有効回答数とはアンケートの回答のうち、何も書いていない回答や実情に合わない回答（すべて1を選択するなど）を除いた人数のこと

回答者属性について（問1.お住まいの地域）

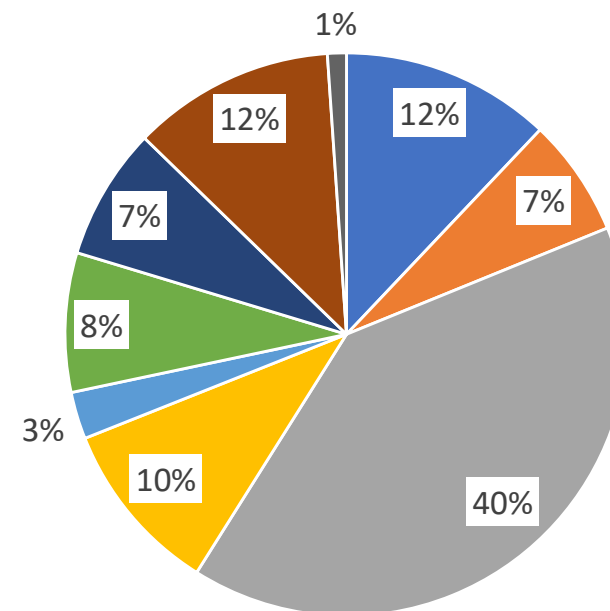
- 市内の各地区から回答を得られた。人口比率の高い紀見地区からの回答が多かった。

地区	大字名	読み方	回答者数
橋本地区	橋本	はしもと	6
	古佐田	こさだ	13
	妻	つま	7
	原田	はらだ	13
	東家	とうげ	15
	市脇	いちわき	10
	小原田	おはらた	3
	菖蒲谷	しょうぶたに	5
	みゆき台	みゆきだい	3
	計:89	さつき台	さつきだい
山田地区	岸上	きしかみ	7
	山田	やまだ	0
	吉原	よしはら	5
	出塔	でとう	2
	計:50	柏原野	かせばら
紀見地区	野	の	12
	神野々	このの	21
	柱本	はしらもと	7
	矢倉脇	やぐらわき	6
	慶賀野	けがの	5
	橋谷	はしたに	10
	御幸辻	みゆきつじ	20
	胡麻生	ごもう	16
	北馬場	きたばば	2
	紀見	きみ	5
紀見地区	細川	ほそかわ	3
	境原	さかいはら	1
	杉尾	すぎお	0
	城山台	しろやまだい	63
	三石台	みついしだい	71
	紀見ヶ丘	きみがおか	37
	柿の木坂	かきのきざか	10
	光陽台	こうようだい	15
	小峰台	おみねだい	20
	計:296	しらすぎ台	しらすぎだい

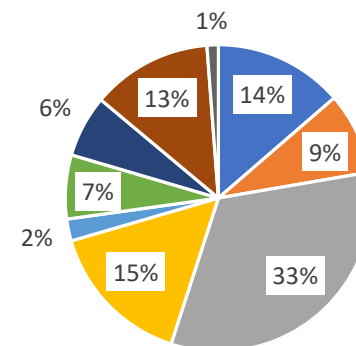
※回答：738件
 ※記入なし：17件

地区	大字名	読み方	回答者数		
隅田地区	隅田町河瀬	すだちようこうぜ	6		
	隅田町下兵庫	同 しもひょうご	16		
	隅田町上兵庫	同 かみひょうご	2		
	隅田町中島	同 なかじま	6		
	隅田町中下	同 ちゅうげ	4		
	隅田町芋生	同 いもう	1		
	隅田町垂井	同 たるい	0		
	隅田町真土	同 まつち	1		
	隅田町平野	同 ひらの	1		
	隅田町山内	同 やまうち	5		
隅田地区	隅田町霜草	同 しもくさ	0		
	あやの台	あやのだい	16		
	計:74	紀ノ光台	きのひかりだい	5	
	隅田町のみ	ー	11		
	恋野地区	恋野	こいの	9	
		赤塚	あかつか	1	
		上田	うえだ	5	
		中道	なかどう	3	
		須河	すごう	1	
		只野	ただの	0	
彦谷		ひこたに	0		
谷奥深		たにおぶか	1		
北宿		きたやどり	0		
南宿		みなみやどり	0		
学文路地区	計:20	学文路	かむろ	18	
	南馬場	みなみばば	9		
	清水	しみず	11		
	賢堂	かしこど	9		
	向副	むかそい	10		
	横座	よこざ	1		
	西畑	にしはた	1		
	高野口地区	計:59	高野口町名倉	こうやぐちちやうなぐら	12
		高野口町大野	同 おおの	18	
		高野口町向島	同 むこうじま	12	
高野口町のみ		ー	14		
高野口地区	計:86	高野口町名古曾	同 なごそ	29	
	高野口町伏原	同 ふしはら	27		
	高野口町応其	同 おうご	14		
	高野口町小田	同 おだ	16		
信太地区	計:8	高野口町田原	同 たはら	2	
	高野口町九重	同 くじゅう	2		
	高野口町上中	同 かみなか	0		
	高野口町下中	同 しもなか	2		
	高野口町嵯峨谷	同 さがたに	2		
高野口町竹尾	同 たけお	0			
合計			738		

地区別回答者数



(参考)地区別人口



橋本市ホームページより
 「字別人口（令和4年9月末）」
 （地区別に再集計）

<https://www.city.hashimoto.lg.jp/guide/somubu/shimin/jinkousyukei/riewa4/12498.html>

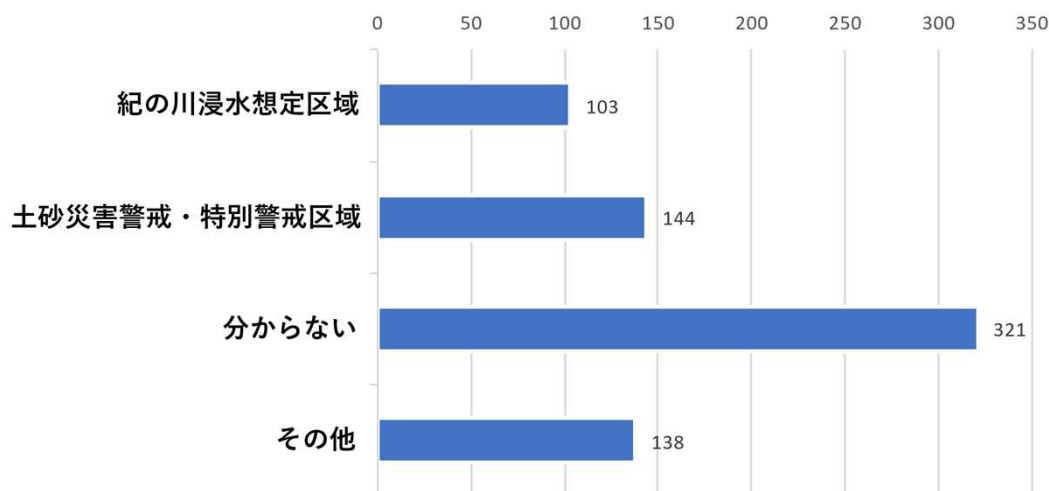
回答者属性について（問2.お住まいのリスク、問3.性別）

- 回答者が住む地区がどのような災害リスクを有しているか「わからない」と回答した方が43%であった。
- 回答者に男女比は同数程度である。

問2.お住まいの住所の災害リスク

選択肢	回答者数	回答率
紀の川浸水想定区域	103	14%
土砂災害警戒・特別警戒区域	144	19%
分からない	321	43%
その他	138	18%

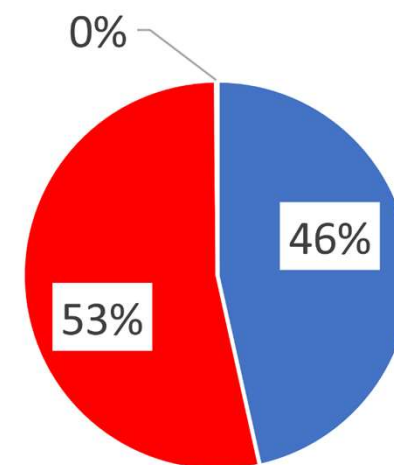
回答者宅の災害リスクの認識



問3.回答者の性別

選択肢	回答者数	回答率
男性	346	46%
女性	397	53%
それ以外	1	0%

性別

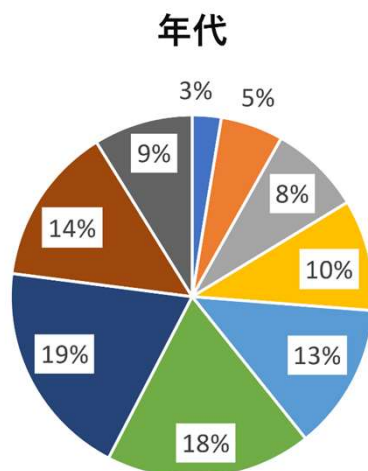


回答者属性について（問4.年代、問5.日常よく利用する情報通信機器）

- 回答者は、各年代から回答が得られた。10代（3%）、20代（5%）からの回答が少なかった。
- 回答者が日常よく利用する情報通信機器は、スマートフォン（66%）、テレビ（79%）との回答が多かった。

問4.回答者の年代

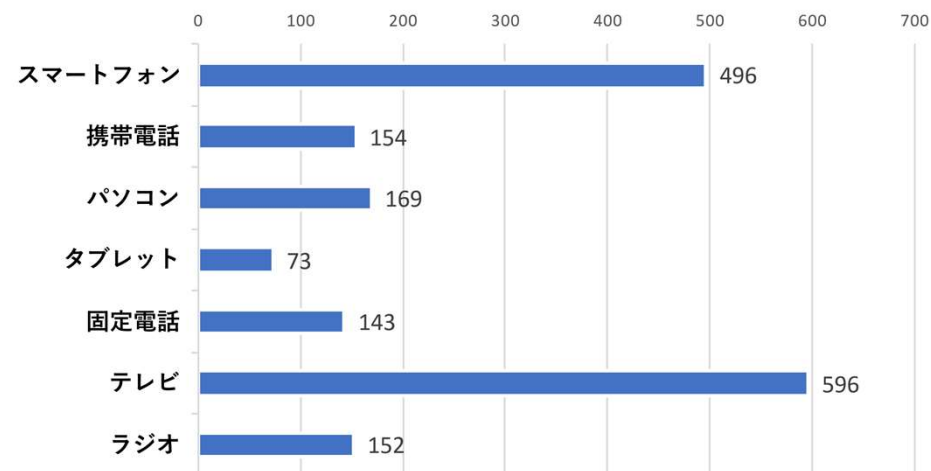
選択肢	回答者数	回答率
10代	19	3%
20代	41	5%
30代	60	8%
40代	73	10%
50代	96	13%
60代	135	18%
70代	143	19%
80代	104	14%
90代以上	65	9%



問5.回答者が日常よく利用する情報通信機器

選択肢	回答者数	回答率
スマートフォン	496	66%
携帯電話	154	21%
パソコン	169	23%
タブレット	73	10%
固定電話	143	19%
テレビ	596	79%
ラジオ	152	20%

日常利用するデバイス



回答者属性について（問4.年代×問5.日常よく利用する情報通信機器）

- スマートフォンは全世代で利用されている。10代~70代は50%以上が利用している。80代以上は20%程度であり他の世代と比べ若干少ない。
- テレビは全年代で多く利用されている。一番少ない10代で47%、20代以上では70%以上が利用している。

問4.回答者の年代 × 問5.回答者が日常利用しているデバイス

回答者数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
スマートフォン	18	38	57	66	88	104	85	26	11
携帯電話	1	5	8	10	14	30	37	38	10
パソコン	6	17	12	23	24	47	26	8	4
タブレット	2	8	11	12	13	15	9	2	1
固定電話	1	1	0	5	6	21	41	42	22
テレビ	9	29	42	56	76	112	123	86	59
ラジオ	0	3	4	4	14	34	49	26	15

%	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
スマートフォン	95%	93%	95%	90%	92%	77%	59%	25%	17%
携帯電話	5%	12%	13%	14%	15%	22%	26%	37%	15%
パソコン	32%	41%	20%	32%	25%	35%	18%	8%	6%
タブレット	11%	20%	18%	16%	14%	11%	6%	2%	2%
固定電話	5%	2%	0%	7%	6%	16%	29%	40%	34%
テレビ	47%	71%	70%	77%	79%	83%	86%	83%	91%
ラジオ	0%	7%	7%	5%	15%	25%	34%	25%	23%

屋外拡声子局について（問6.・問7.日頃・雨天時、情報を得られているか）

- 日頃、「放送に気づかない」、「言葉が聞き取れない人」を合わせると61%程度である。
- 雨天時、「放送に気づかない」、「言葉が聞き取れない人」を合わせると77%程度である。

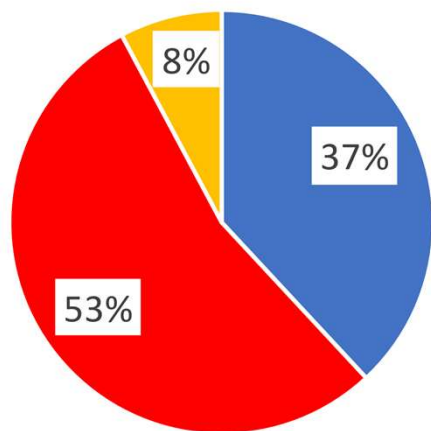
問6.日頃、屋外拡声子局から情報を得られているか

選択肢	回答者数	回答率
言葉を聞き取ることができる	278	37%
放送が流れていることはわかるが言葉は聞き取れない	395	53%
放送に気づかない	57	8%

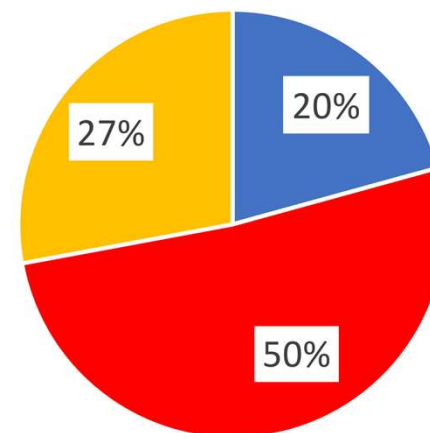
問7.雨天時、屋外拡声子局から情報を得られているか

選択肢	回答者数	回答率
雨が降っている状況でも言葉を聞き取ることができる	153	20%
放送が流れていることはわかるが言葉は聞き取れない	379	50%
雨が降っているときは放送に気づいたことが無い	206	27%

日頃、屋外拡声子局の放送が聞こえているか



雨天時、屋外拡声子局の放送が聞こえているか



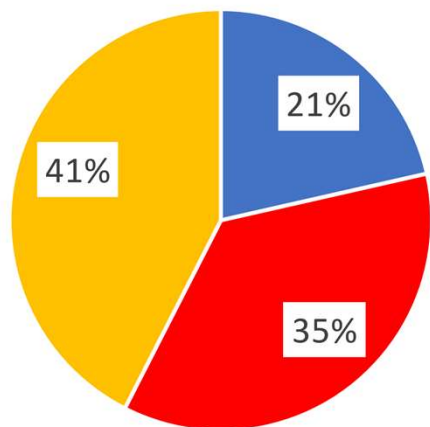
屋外拡声子局について（問8.夜間、情報を得られているか）

■ 夜間、「放送に気づかない」、「言葉が聞き取れない」人を合わせると75%程度である。

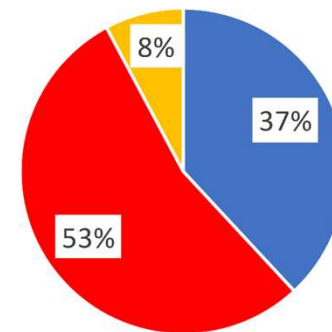
問8.夜間、屋外拡声子局の放送が聞こえているか

選択肢	回答者数	回答率
夜間でも言葉を聞き取ることができる	157	21%
放送が流れていることはわかるが言葉は聞き取れない	264	35%
夜間の放送に気づいたことが無い	311	41%

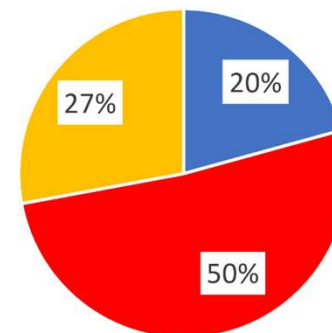
夜間、屋外拡声子局からの放送が聞こえているか



再掲 日頃、屋外拡声子局の放送が聞こえているか



再掲 雨天時、屋外拡声子局の放送が聞こえているか



屋外拡声子局について

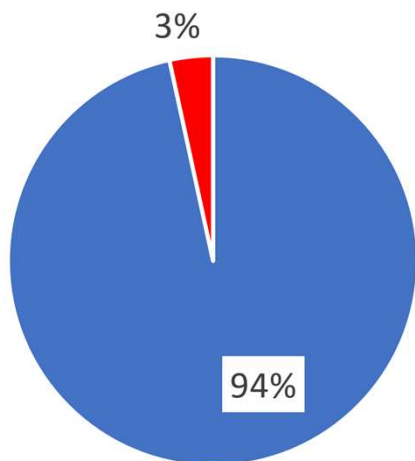
(問9.ミュージックチャイムの音楽の変更、問10.ミュージックチャイムの回数の変更)

- 時報の音楽、回数ともに現状のままでよいという回答が多かった (94%)。

問9. 音楽を変更したほうがよいか

選択肢	回答者数	回答率
変更しなくてよい	707	94%
変更を希望する	25	3%

時報の音楽の変更の有無

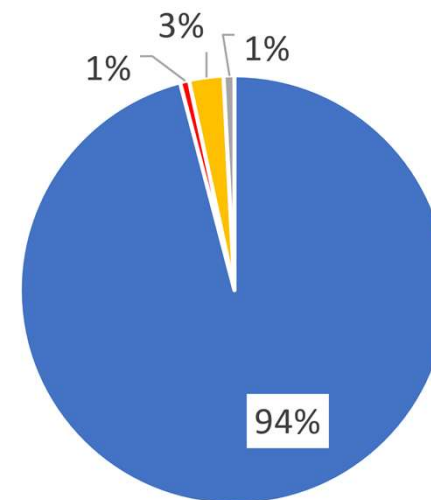


- ・オルゴールなど
- ・明るくて元気の出るメロディ

問10. 放送回数を変更したほうがよいか

選択肢	回答者数	回答率
今のまま12時と17時でよい	705	94%
12時だけでよい	5	1%
17時だけでよい	19	3%
流さなくてよい	6	1%

時報の放送回数の変更を希望するか



- ・12時：ドラゴンクエストより（序曲）、17時：ザナルカンドにて（FFX）
- ・「野ばら」はよく分かりません。「赤とんぼ」はとてもいいと思います！

屋外拡声子局について

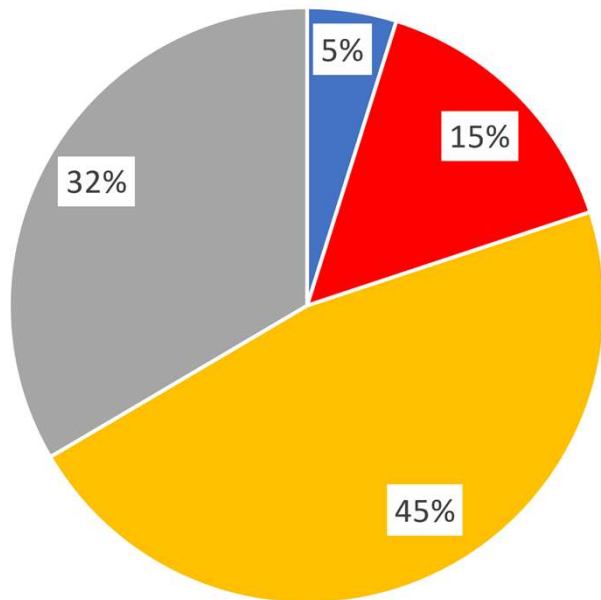
(問11.ミュージックチャイムの利用方法・問12.ミュージックチャイムに関する意見)

- 時報を「生活のリズム等に利用している人」は65%、「利用していない人」は32%いる
- 意見の中には、「聞こえない」だけでなく「騒音」といった声もある

問11.ミュージックチャイムをどのように利用しているか

選択肢	回答者数	回答率
ミュージックチャイムを合図として家庭での約束事を決めている(聞こえたら帰宅する等)	35	5%
屋外作業の目安にしている(休憩、業務の始業、終業)	109	15%
生活習慣・リズムなどに利用している(昼食の合図など)	337	45%
特に利用していない	242	32%

時報をどのように利用しているか



問12.ミュージックチャイムの感想・要望

<好意的なご意見>

- ・現状のままで良い
- ・音楽に癒される
- ・生活リズムの目安になる
- ・時報を残してほしい
- ・市が市民を見守っている気がする
- ・聞くと気持ちが切り替わって良い
- ・知的障がいがある子供が楽しそうに聞いている
- ・役に立っている
- ・時間がわかってよい
- ・作業に集中しているときに助かる
- ・生活になくってはならない
- ・便利

<ネガティブなご意見>

- ・もう少し音量を大きく
- ・家の中では聞こえない
- ・放送内容が聞き取れない
- ・風向、降雨によって聞こえない
- ・17時は良く聞こえるが、12時は聞いた事がない
- ・ハウリングして音がずれて気持ち悪い
- ・聞き取れないから施設場所を多くする。又は廃止したほうが良い
- ・14:30の放送は形式的な言葉で、いやだ
- ・学校から放送されていると思っていた
- ・騒音である

<改善案に関するご意見>

- ・朝7時又は8時に流してほしい
- ・聞きなれた音楽がいい・童謡を流してほしい
- ・季節ごとに音楽を変えてほしい。ウォーキング時に聞いている
- ・時報は音楽だけでなく、時間を伝えてほしい
- ・幅広い年代に馴染みのある曲がいいと思う

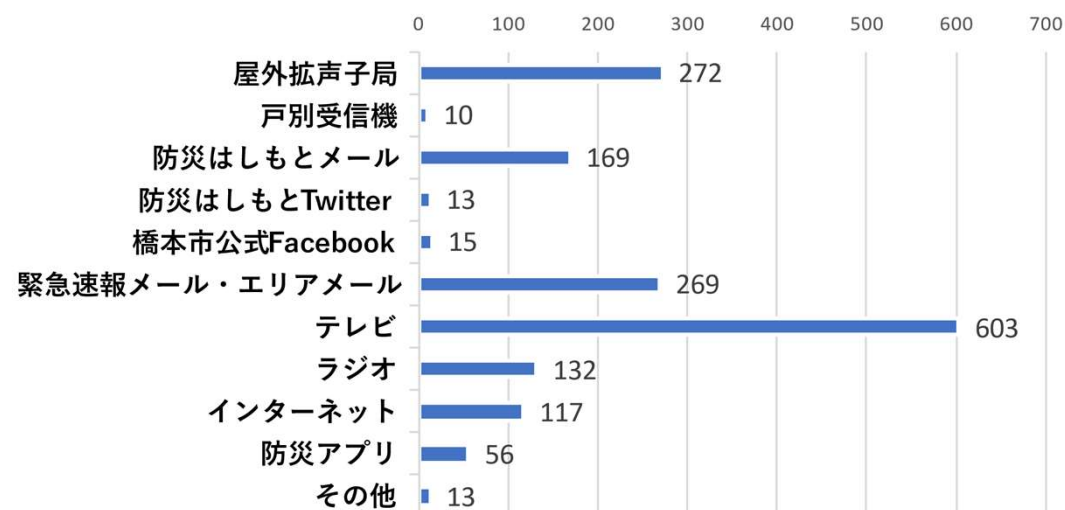
防災情報の取得手段について（問13.災害情報の入手手段）

- テレビから情報を入力する人が多い（80%）
- 橋本市から提供している複数の手段のうち、屋外拡声子局（36%）、防災はしもとメール（23%）、緊急速報メール・エリアメール（36%）が多く利用されている。SNSの利用者は少ない（2%）。
- 防災アプリを自主的に利用されていることが伺える。

問13.日ごろ、どのような方法で災害情報を入力しているか

選択肢	回答者数	回答率
屋外拡声子局	272	36%
戸別受信機	10	1%
防災はしもとメール	169	23%
防災はしもとTwitter	13	2%
橋本市公式Facebook	15	2%
緊急速報メール・エリアメール	269	36%
テレビ	603	80%
ラジオ	132	18%
インターネット	117	16%
防災アプリ	56	7%
その他	13	2%

災害情報の取得手段



<インターネットサイト>

・ Yahoo! ・ 和歌山県HP ・ Google ・ Smartニュース ・ 気象庁HP ・ 気象協会HP ・ ウェザーニュース ・ 橋本市HP

<防災アプリ>

・ NHK ・ Yahoo! ・ ゆれくる ・ ラインスマート通知 ・ ウェザーニュース ・ NERV

<その他>

・ テレビのdボタン ・ 家族 ・ 雨を見て ・ 施設の職員

防災情報の取得手段について

(問14.市が提供する情報配信サービス登録状況、問15.ご意見)

- 「防災はしもとメール」が最も利用されているが、21%程度であり、あまり利用されていない状況である。
- 「認識しているが登録していない」「サービスの存在を知らない」人が合わせて73%であり、周知・啓発に力を入れていく必要がある。

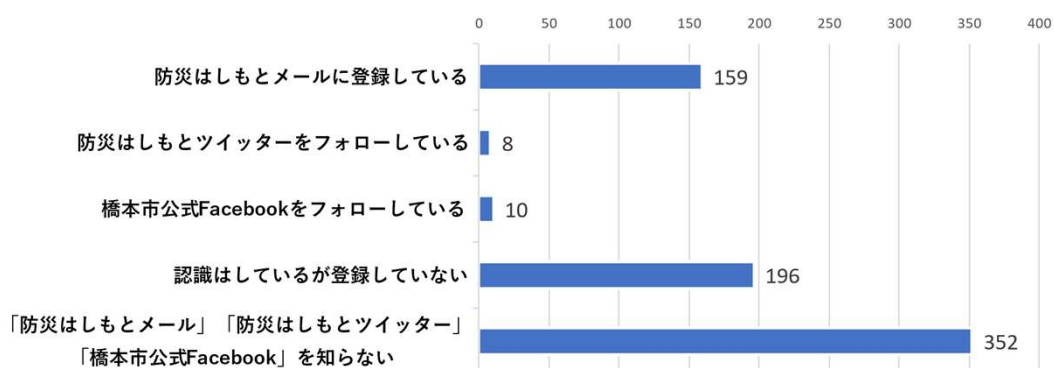
問14.市が提供する情報配信サービスの登録状況

選択肢	回答者数	回答率
防災はしもとメールに登録している	159	21%
防災はしもとツイッターをフォローしている	8	1%
橋本市公式Facebookをフォローしている	10	1%
認識はしているが登録していない	196	26%
「防災はしもとメール」「防災はしもとツイッター」「橋本市公式Facebook」を知らない	352	47%

問15.市が提供する情報配信サービスに関するご意見

- ・ 地区での集まりが少ないので、情報共有の場がない
- ・ メールやSNSもっとPRすべき
- ・ お金が無いので入手できない
- ・ スマホアプリにまとめてほしい
- ・ 機種変等でメールがこなくなる
- ・ ぜひいずれかを利用したい
- ・ スマートフォンを持っているが、メールアドレスがない
- ・ 自分は知っているが、高齢な母親は何も知らない
- ・ 防災メール登録方法が知りたい
- ・ 登録の仕方がわからない
- ・ 見たことがなかったので、これから見てみようと思う
- ・ 携帯をもっていない
- ・ 老夫婦のため、メール、ツイッターはわからない
- ・ スマホ登録の仕方がわからない。登録して欲しい。

メール・SNSの登録状況



防災情報の取得手段について (問14.市が提供する情報配信サービス登録状況×年代)

- メールは20代以降の世代で利用されている。
- SNSはほとんどの年代で登録されていない。
- 存在を認識していない人がどの年代でも多い。

問14.市が配信する情報配信サービスの登録状況 × 年代

回答者数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
防災はしもとメールに登録している	0	6	12	26	30	39	27	12	3
防災はしもとツイッターをフォローしている	0	0	2	1	1	2	1	1	0
橋本市公式Facebookをフォローしている	0	0	2	2	2	1	1	1	1
認識はしているが登録していない	5	13	12	17	22	43	39	31	12
「防災はしもとメール」 「防災はしもとツイッター」 「橋本市公式Facebook」を知らない	14	22	36	28	41	51	66	54	38

%	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
防災はしもとメールに登録している	0%	15%	20%	36%	31%	29%	19%	12%	5%
防災はしもとツイッターをフォローしている	0%	0%	3%	1%	1%	1%	1%	1%	0%
橋本市公式Facebookをフォローしている	0%	0%	3%	3%	2%	1%	1%	1%	2%
認識はしているが登録していない	26%	32%	20%	23%	23%	32%	27%	30%	18%
「防災はしもとメール」 「防災はしもとツイッター」 「橋本市公式Facebook」を知らない	74%	54%	60%	38%	43%	38%	46%	52%	58%

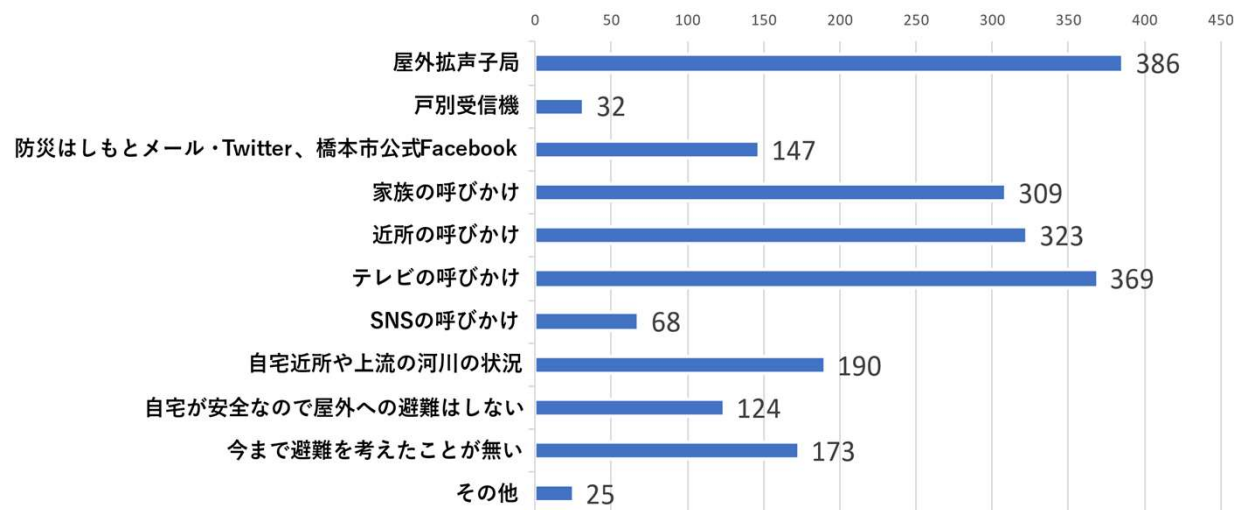
防災情報の取得手段について（問16.避難のきっかけ）

- 市からの情報を得ることができる手段として「屋外拡声子局」の情報をきっかけとしている人が最も多かった（51%）
- 家族や近所の人呼びかけも多い（40%以上）
- 避難したくても、避難が難しいという意見もあった

問16.避難を判断するきっかけ

選択肢	回答者数	回答率
屋外拡声子局	386	51%
戸別受信機	32	4%
防災はしもとメール・Twitter、橋本市公式Facebook	147	20%
家族の呼びかけ	309	41%
近所の呼びかけ	323	43%
テレビの呼びかけ	369	49%
SNSの呼びかけ	68	9%
自宅近所や上流の河川の状況	190	25%
自宅が安全なので屋外への避難はしない	124	17%
今まで避難を考えたことが無い	173	23%
その他	25	3%

避難のきっかけ



- ・ 入所施設の職員
- ・ 山崩れの起きたら
- ・ 子供がいるので情報を集めて早目に避難を心がける
- ・ 自宅が安全と判断できるまでは情報収集をする
- ・ 海や山のそばでもないのに、今まで避難等考えた事ないです
- ・ 高齢者（介護中）が在宅しているので、簡単に避難することが難しい。たとえ避難できたとしても、そこで長時間滞在は、ムリです
- ・ 単位日一時の積算雨量
- ・ 区の役員の指示
- ・ 近所の支援者が来たら
- ・ 自分1人では移動出来ない

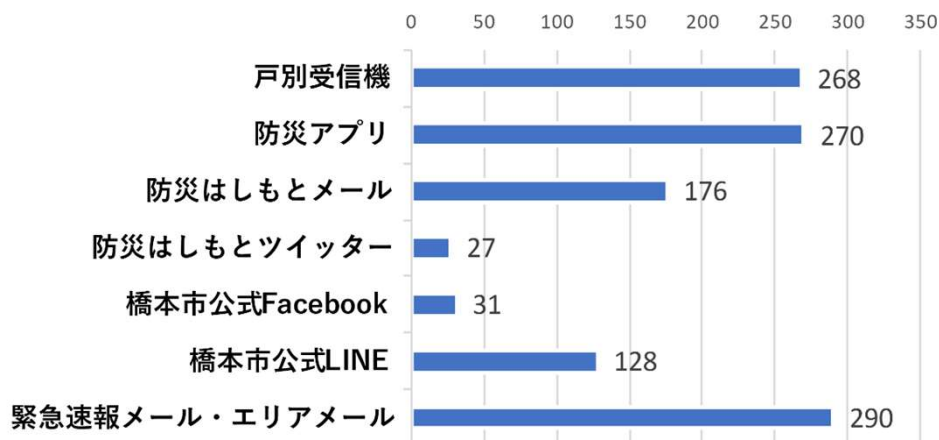
防災情報の取得手段について（問17.今後期待する手段、問18.子局の継続有無）

- 防災アプリや戸別受信機、緊急速報メール・エリアメールへの期待が高い（30%以上）
- 屋外拡声子局の継続を希望する人が多い（68%）

問17.今後の情報伝達手段としての期待

選択肢	回答者数	回答率
戸別受信機	268	36%
防災アプリ	270	36%
防災はしもとメール	176	23%
防災はしもとツイッター	27	4%
橋本市公式Facebook	31	4%
橋本市公式LINE	128	17%
緊急速報メール・エリアメール	290	39%

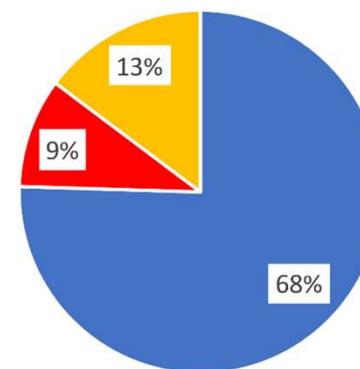
今後の希望



問18.屋外拡声子局の継続を希望しますか

選択肢	回答者数	回答率
屋外拡声子局を継続して欲しい	511	68%
屋外拡声子局を継続しなくても問題はない	66	9%
わからない	100	13%

屋外拡声子局の継続有無



防災情報の取得手段について（問17.今後期待する手段×年代）

- 戸別受信機への期待度は60代以上で高い（約40%以上）。世帯に確実に情報を届けられることとともに、市から得られる情報元としての信頼性や安心感に対する期待が大きいと思われる。
- 防災アプリへの期待度は10代から60代までで（約40%以上）。個人に確実に情報を届けられることとともに、市外の通学・通勤時にも情報を得られることができることが期待されていると思われる。
- 緊急速報メール・エリアメールへの期待度は、10代から50代までで高い（40%以上）。

期待する手段×年代

回答数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
戸別受信機	3	8	12	15	25	53	61	52	33
防災アプリ	11	26	31	38	40	52	41	19	7
防災はしもとメール	3	8	13	22	28	44	36	15	4
防災はしもとツイッター	0	3	2	6	4	5	4	2	1
橋本市公式Facebook	0	2	2	2	6	7	6	3	3
橋本市公式LINE	5	10	17	22	23	22	14	8	4
緊急速報メール・エリアメール	11	19	33	44	49	47	51	22	12

%	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
戸別受信機	16%	20%	20%	21%	26%	39%	43%	50%	51%
防災アプリ	58%	63%	52%	52%	42%	39%	29%	18%	11%
防災はしもとメール	16%	20%	22%	30%	29%	33%	25%	14%	6%
防災はしもとツイッター	0%	7%	3%	8%	4%	4%	3%	2%	2%
橋本市公式Facebook	0%	5%	3%	3%	6%	5%	4%	3%	5%
橋本市公式LINE	26%	24%	28%	30%	24%	16%	10%	8%	6%
緊急速報メール・エリアメール	58%	46%	55%	60%	51%	35%	36%	21%	18%

欄外のご意見

■ 屋外拡声子局の放送が聞こえないため、改善を求めのご意見を多くいただいた

①屋外拡声子局の改善を求める声（放送が聞き取りづらい等）	16
②屋外拡声子局の廃止を求める声	3
③屋外拡声子局の継続を求める声	2
④アンケートに対するご意見	4
⑤その他（応援、災害への恐怖、障害があり文字情報は難しい電話がよい、防災ハンドブックの最新版がほしい、スマホ向けの手段の使い方を教えてほしい）	6

- ・屋外拡声子局の放送を聞きとりやすくしてほしい（放送を1基ずつにする、機能の高いスピーカーにする、地形的に聞き取れない、声が割れる、中波又短波の放送を検討してほしい、戸別受信機と併用してほしい、屋外拡声子局の密度が低過ぎる）
- ・コロナ渦であることもあり、非常に関心がある。災害に強い橋本市づくりをぜひお願いします。
- ・過去の被災経験もあり、南海トラフへの恐怖が大きい。
- ・個人的には必要性を感じない。が、予算的に負担がないのなら、続けても良いと思う。
しかし、児童の音楽の準備や放送の段取りなど学校現場の負担や、公平性など無理もあると思うので、発展的中止の検討は必要かと思う。
- ・知的に障がいがある為、スマートフォンでの電話対応は可能ですが、メールでの文字は難しい。
- ・緊急の場合は初めに特別な音声又は音楽を流してほしい。窓を開けないと音声は聞こえないので、放送時間の開始をおくらせてほしい。
- ・屋外拡声子局からの話が聞きとりにくくなに話をしているか分からない事が多い。はっきりと分ければ継続して欲しいと思う。
- ・土砂災害の危険がある地域に雨量計を設置してほしい。
- ・平木市長の選挙公約で、防災無線を廃止し、戸別受信機の配布やスマートフォン等による防災情報の発信により、災害対策を強化すると言っていた。早く実行してほしい。
- ・新しい防災ハンドブックが欲しい。
- ・情報伝達手段が多い方が伝わる可能性が高いのではないか。
- ・夜間に男性の声は怖い。
- ・子供が放送で起きることがある。
- ・スマホでの情報の受け取りかたを教えてほしい
- ・我が家では放送内容が聞き取りにくいのですが、放送があると「何かあったのか」と他の方法で情報収集するきっかけになっているので、重要な働きをしていると思います。

アンケート結果のまとめ

回答者属性について

- 市内全域から、各年代ごとに男女比同数程度の回答を得ることができた。
- 自身の住む地域の災害リスクについて「わからない」という回答が多かった。
- 日常よく利用する情報通信機器はスマートフォンとテレビである。

屋外拡声子局について

- 屋外拡声子局の放送では放送内容を明確に伝えることができていないことが多く、「情報を確実に伝達する手段」としては役に立っていないことが伺える。

災害情報の取得手段について

- テレビから情報を入手する人が多い。
- 橋本市から提供している複数の手段のうち「屋外拡声子局」「防災はしもとメール」「緊急速報メール・エリアメール」が多く利用されている。
- 一方、市から提供している情報配信サービス（メールやSNS）については、広く認識されていない状況である。また、利用したいが登録の仕方がわからないという意見があった。
- 放送内容が「聞こえていない」にもかかわらず、「避難の判断をする」という矛盾が生じている。
- 避難の判断は、家族や近所からの呼びかけをきっかけとしている人が多い。
- 現役世代からは、市外の通学・通勤時にも個人に確実に情報を届けることができる「防災アプリ」への期待が大きい。
- 60代以上の世代からは、世帯（屋内）に確実に情報を届けることができる「戸別受信機」への期待が大きい。

アンケート結果から求められる今後の取り組み

- 周知だけでなく、防災教育やセミナー等の場で登録方法を丁寧にサポートする取り組みが重要である。
- 屋外拡声子局に代わり、確実に情報を届けられる仕組みが必要である。
- 遠く離れた家族でも橋本市内の災害状況を把握できる仕組みができれば、家族の避難を促す重要なきっかけとなることが期待できる。

対策のイメージ

- 橋本市の市民は大阪府内や和歌山市など周辺への通学・通勤者が多く、現役世代は市内にいない時間帯が多いことを踏まえ、市外の通学・通勤時にも個人に確実に情報を届けることができる「防災アプリ」を整備。
- 視覚障がいをお持ちの方が利用しやすいように防災アプリには音声読み上げ機能を有すること。
- 農業を営む方や障がいをお持ちの方、子育て世代、高齢世代で市内や屋内で過ごすことが多い市民を想定し、世帯（屋内）に確実に情報を届けることができる「戸別受信機」を整備。
- 聴覚障がいをお持ちの方が利用しやすいように戸別受信機とともにサイネージ機器を整備。
- 防災アプリ等の情報を活用していただくために、「周知活動に加え、登録方法等のサポートを含む啓発活動」に取り組む。

※年齢や世帯構成等で利用できるサービスを分けることはせず、要望に応じていずれのサービスも利用可能とする。